

## 術前検査にて抗 Rh17 の保有が判明した 1 例

◎西垣 亮<sup>1)</sup>、平 智華<sup>1)</sup>、松野 貴洋<sup>1)</sup>、太田 貴江<sup>1)</sup>、西井 智香子<sup>1)</sup>、北川 文彦<sup>1)</sup>  
学校法人藤田学園 藤田医科大学岡崎医療センター<sup>1)</sup>

【はじめに】D--は稀な Rh 血液型であり、抗 D とは反応するが抗 C、抗 c、抗 E、抗 e とは反応しない赤血球で日本人ではおよそ 10 万人に 1 人の割合で存在する。D--の人が輸血や妊娠などで免疫刺激を受けた場合、高頻度抗原である Rh17 (Hr<sub>o</sub>) に対する免疫抗体が産生されやすいことが知られている。今回当院において、抗 Rh17 の検出を経験したので報告する。

【症例】80 歳台男性。輸血歴あり（詳細不明）。下行結腸癌の手術目的で入院。

【経過】術前外来の不規則抗体スクリーニングで陽性。自己赤血球を除くすべての赤血球と凝集反応を示した。高頻度抗原に対する抗体を疑い血液センターへ検査を依頼した。検査の結果、患者血液型 D--、および抗 Rh17 を検出。同内容を主治医へ報告した。血液センターへ解凍赤血球液 (FTRC) の在庫・供給情報の確認を行い、臨床医へは当院での自己血貯血についての情報提供を行った。手術内容や術前 Hb が 15.4g/dL であることから自己血貯血は今回不要との判断となった。ロボット支援下左側結腸切除が実施

され、術中出血量は 121g であった。術後も良好な経過であり輸血が必要となることはなかった。患者の退院前に輸血関連情報カードを作成し患者本人へ説明を行うとともにカードを提供し、他の医療機関を受診する際には提示いただくようお願いした。

【考察】不規則抗体検査実施の際、自己赤血球以外との反応が全て陽性であった場合、一般的には高頻度抗原に対する抗体を考慮するが、抗 Rh17 に関しては経験したことがなく想定外であった。しかしながら血液センターへ検査を委託する前に院内にて Rh 因子検査を実施していれば事前に予測できていたかもしれない。

【まとめ】今回、稀な抗 Rh17 を保有した症例に遭遇した。幸い当該患者は輸血することなく手術終了となり退院された。患者への聞き取り調査では以前に手術をした際輸血をしたとの情報が得られたが詳細は不明であった。輸血関連情報カードの有用性を改めて実感した症例であった。  
連絡先：藤田医科大学岡崎医療センター臨床検査部 0564-64-8186